

窯業科

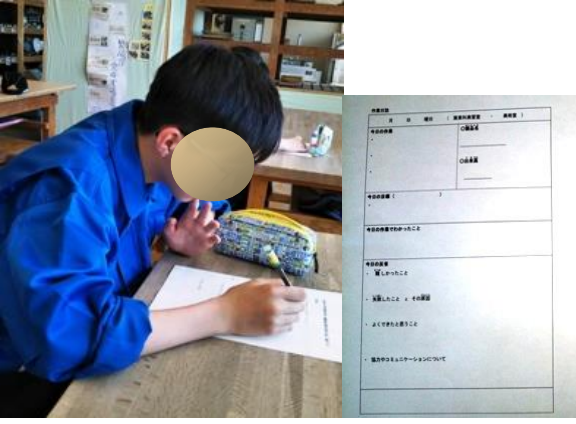
1 指導の方針

- (1) 陶芸作業に関する、成形をはじめ、粘土の再生作業、清掃作業など、様々な作業を通して、個々の実態に応じて、働くための集中力・忍耐力・判断力を高め、自主性や主体性を育てる。
- (2) 自学年での作業や他学年間での合同作業において、グルーピングや授業形態を工夫し仲間と協力・共同する力とコミュニケーション力を育てる。
- (3) 生徒が製造・販売を含む作業の全体像を把握し、作った製品を通して他者への貢献を実感できるような学習の展開に努める。
- (4) 生徒が学習を通して達成感を持てるよう、生徒の実態・工程の簡易さ・製品の美しさの観点から技法についてよく吟味する。

2 製品紹介

 2018 四角皿・石膏型（平）50円			
四角皿		りんご皿各種	
		 2018 湯飲み（小）	
カフェオレ用カップ		小物（箸置きとキーホルダー）	湯のみ
			
耐熱カップ		マグカップ	丸皿

3 働く力6観点に基づく指導

		
1-(2)安全管理 - 窯業科では機械や道具に巻き込まないように「腕まくりをする事」「ボタンをきちんと留める事」など、安全に作業を行うための服装を徹底しています。 - やすりがけの際に生じる粉塵を吸い込まないようにマスクの着用も生徒達自ら心がけています。	2-(1)自己理解 2-(2)働くことの意義・意欲 - 毎回の作業学習を振り返り、作業日誌を記入しています。適切な自己評価ができるよう「良かった（良くなかった）点」の項目以外にも、各学年の発達段階に合わせて、必要な項目を設定しています。 - 次回の仕事への責任を持つため、製品の出来高や進捗なども記入しています。	3-(1)役割 3-(3)協力意識 他科作業期間中は、他の学科の生徒に「準備・清掃」「工程」などを教える場面を設定しています。他学科の生徒へは、より詳しい説明や気遣いが必要なため、役割意識を高める良い機会です。職場の人間関係をより良いものにするため、他者への気持ちの良い協力ができるよう支援しています。
		
1-(3)集中力・体力 5-(1)状況把握 作業に集中するためには工程についての見通しを持つことが重要です。写真付きの工程表を準備し、生徒が迷わず作業を進められるようにしています。また、適切なタイミングで確認を受けるための初歩的な支援として、工程表の中に確認のタイミングも明記しています。	5-(1)状況把握 5-(2)判断 - 清掃活動は周囲の人間の動きを良く見て状況を判断する力を養うための最適な学習活動です。清掃を効率的に行うためには自分が今何をしなければならないか常に考えなければなりません。 - 活動中は、重い物を運ぶなど周囲の協力を求める場面や手薄な所へ人が回るように声がけを行う必要があり、コミュニケーション面でのスキルアップにも繋がります。	2-(2)働くことの意義・意欲 4-(3)感謝 5月と学校祭での学科製品販売会では、自分達の作った製品についてのお客さんの反応が直接的に感じられる貴重な機会です。お客さんの笑顔やお褒めの言葉に、自分達の仕事が人の役に立っていることがわかり、自己有用感を高められる活動です。また、感謝の気持ちや「ありがとうございます」の言葉が、生徒から自然に出てくる生き活きとした活動になります。

4 キャリア発達の促進

異学年合同作業

窯業科では1学期に1・3年生が週に1度6～7回、3学期に1・2年生が同じく週に1度6～7回程度の合同作業を行っています。「就労場面を想定した異年齢間のマナー意識やコミュニケーション能力を高める」事が合同作業の目的であり、異学年の生徒同士が直接触れあう場面を設定しています。

合同作業中は各グループ毎に上級生が下級生に指導をし、製品を作っていきます。上級生は「わかりやすく、親切に」指導できるよう練習もし、リーダーシップが磨かれています。また、下級生は礼儀正しく振る舞えるように良い意味での緊張感を持って学んでいます。働く力6観点の大項目2～5に渡る様々な教育効果がある活動となっています。

あかとき学園さんへの納品

深川市にある「あかとき学園 GreenMarketCafe」さんで使われている食器を年に1度納めています。これまでにカップやソーサー等を納めてきましたが、今年度のご飯物を装う楕円皿を制作する予定です。自分達の作った製品が社会の中で、好ましい物として認識され、人の役に立つことができる喜びを感じられる活動であり、勤労の意欲に繋がっています。



上段、下段左：合同作業の様子

下段右：グリーンマーケットカフェさんに納品した食器とカフェの外観